



# みどりのきずな

平成24年1月1日発行 第16号

## 【緑区地域福祉計画基本理念】

『地域住民のきずなを深め、みんなが  
手を結び合い、住みよいまちづくりを推進する』  
—明るい社会を築いてきた高齢者のために—  
—未来を築く子どもたちのために—  
—障害者(児)が希望を持って地域に生き、働けるために—

編集: 緑区地域福祉計画推進協議会広報部会

発行: 緑区地域福祉計画推進協議会事務局

(緑保健福祉センター 高齢障害支援課内)

千葉市緑区鎌取町 226 番地 1

TEL:043(292)8142 FAX:043(292)8276

何かを始めると何かにつながり  
何かが生まれる

「椎名小学校漢字・パワーアップ」

ボランティア活動を振り返って

委員長 岡本 博幸

新年あけましておめでとうございませ  
す。今年は辰年、皆様にとって飛躍の年  
でありますようご祈念いたします。

平成二十三年度新語・流行語トップ三  
は「なでしこジャパン・帰宅難民・絆」  
でありました。「なでしこジャパン」は  
国民に感動と希望を与えてくれました。  
「絆」は、東日本大震災で、地震、津波、  
原発という未曾有の大被害を蒙ったその  
後の復興に向けての合言葉として全国  
的・世界的に広がっていききました。

十一月下旬にパリのユネスコ本部を表  
敬訪問する機会がありました。玄関を入  
ると正面に「絆・KIZUNA」の文字  
の下に、世界五十九カ国、三万四千四百八  
十五のメッセージが寄せられていること  
が大きく書かれていました。「絆」の言葉  
が全世界に広がりを見せていることを示  
していました。大変感動的でした。

世界的言語として「もったいない」が  
あります。それに続いて「絆」が世界的  
言語として定着し、世界の人々が手を結  
び世界平和の礎になる言語として広まっ  
ていくことを願わずにはいられませんで  
した。

「絆」は、家庭が基となり、向こう三  
軒両隣から、村、町、市、そして国と広

がっていきます。「絆」は人々の営みの中  
で生まれ、強い絆を作り、守り、育み、  
受け継ぎ、広めそして、結び目を強くし  
ていくのです。

「絆」は、人と人との繋がり、事と事  
の繋がりを通して生まれるものです。で  
すから、何かを始めなければ絆は生まれ  
てこないのです。その何かを始める第一  
歩が大事だと思っています。緑区地域福  
祉計画推進協議会の委員の皆様は、地域  
福祉の一助となるべく様々な行動を計画  
し進めています。しかし、その一歩の踏  
み出しは、大変なことと思っています。  
ここで、「椎名小学校漢字・パワーアップ」

ボランティア活動がどのような過程  
を経て現在に至っているかを紹介して  
みたいと思います。ボランティア活動の出  
発は、私の方から学校へお願いに上がり  
ました。それは、学校と地域の結びつき  
を高めること、児童の学力向上に繋がる  
こと、子どもとの触れ合いを深めること、  
そしてボランティア活動の推進でありま  
した。

しかし、学校教育法の免許を持たない  
素人が関わることで、学校として  
は大きな問題だったと思います。先生方  
との意思統一・問題作成・子どもとの対  
応等々共通理解を図るうえで職員会議が  
何回となく行われたと思われま。これ  
らの課題を乗り越えて一歩(平成十八年  
四月)を踏み出してください。先生は、前任校で  
同じような活動をしていたことがあると

いうので、共通理解を得るにあたっては、  
大変好都合でした。その一歩を踏み出し  
ていただいたことに大変感謝をしていま  
す。その後、井出實校長先生、森正一校  
長先生のご理解、そして教職員の皆様  
のご支援を得て現在まで五年間続けること  
ができ、感謝の言葉もありません。

ボランティアの皆様は、毎水曜日八時  
十分〜八時二十五分までの時間、先生が  
用意した漢字テストを採点し、間違いの  
指導をして帰ります。学期一度反省会を  
もって意見交換しています。ボランティ  
アの人達は、学年一人か二人です。常時  
十人〜十二人の方が携わっています。児  
童六年生の向後さん下池さんは、「家庭で  
の勉強の習慣がついた。漢字の音訓の読  
みがわかるようになった。ドリルの勉強  
で漢字の使い方がわかってきた。音読が  
スラスラできるようになった。五十問テ  
ストで九十点以上取れるようになった。」  
との感想を述べてくれました。

ピンと張り詰めた教室の空気、カタ  
カタとなる鉛筆の快い響き、「やった、百  
点」という喜びの声、その瞬間に浸るこ  
とができる喜びを感じています。わずか  
十五分の絆ですが、この出会いが大きな  
絆になることを願っています。「人から事  
へ、事から人へ」の中で何かが生まれて  
きます。その何かを大切にしたいと思  
います。「何かを始めると何かにつながり何  
かが生まれる」これが福祉の原点と思っ  
ています。



# TOPIX

## ◆第十四回精神保健福祉教室

### 「こころの健康教室」の開催について

こころの健康に悩む人達が、これを克服しながら地域で暮らし、喜びを見出せるようにするのは大きな課題です。そこで専門家の先生によるお話を聞き、こころの健康を考える豊かな生活をするために皆で語り合ひましょう。

日時：平成二十四年二月五日（日）

十三時～十六時

会場：緑区鎌取コミュニティセンター

多目的ホール

講演：テーマ「統合失調症の早期支援とリハビリテーション」

講師：東大医学部付属病院 助教 精神科医 古川 俊一 先生

主催：千葉市保健福祉局高齢障害部 障害者自立支援課

実施主体：NPO法人千家連、千南会



## ◆おゆみ野地区部会による

### 「ふれあい・いきいきサロン」

十二月八日（木）、鎌取コミュニティセンター三階多目的ホールで、高齢者福祉委員会主催、ボランティア委員会の協力により、「ふれあい・いきいきサロン」が開催されました。

会場を歌声列車にみたてたアコースション奏者の徳永馨さんの伴奏で、「北国の春」や「きよしこの夜」などクリスマスソングを全員で熱唱。サンタやトナカイに扮したスタッフが会場を回り、さらに盛り上がりました。最後に、サンタからプレゼントのお菓子が手渡され、参加者大満足の、ちよつと早めのクリスマス会となりました。

現在、緑区では第二期地域福祉計画を推進しているところですが、このたび、本計画をより具体的に進めるため、四つの小委員会を設置しました。活動状況について左記のとおり報告します。

# 小委員会

## コーナー

現在、緑区では第二期地域福祉計画を推進しているところですが、このたび、本計画をより具体的に進めるため、四つの小委員会を設置しました。活動状況について左記のとおり報告します。

### ◆災害時障害者対応

災害時における障害者の特性に応じた協力体制の構築に向けて検討する小委員会を、これまでに計二回開催しました。他市の要援護者支援を参考に、支援の方法も平常時の支援と災害時の支援に分けて検討しています。

### ◆見守りネットワーク構築

見守りネットワークの構築に向けて検討する小委員会を、これまでに計二回開催しました。他市及び市内の先進事例等を基に、見守りとは何か、どこが主体となるのか、見守りネットワークのイメージ等、様々なことについて検討しているところです。今後の目標としては、対象地域、地区をモデル的に選定し、見守り体制づくりを進めていきたいと考えています。

### ◆災害時マップづくり

災害時における避難経路や避難場所（広域避難場所、避難所）、災害医療協力施設等を分かりやすく掲載した災害マップの作成方法について検討する小委員会を、今後開催していく予定です。

### ◆学校生徒と施設入所者との交流

「手紙から始まる絆の出会い」を実践するため、緑区内の小・中学生と施設入所者の手紙等（絵手紙、短歌、川柳）による交流を検討する小委員会を、これまでに計四回開催しました。交流を通して共に生きることの大切さ・すばらしさを理解し合うことを目的として、二つの小学校と三つの中学校を選定し、また、軽費老人ホームを五つ選定しました。現在、それぞれの学校及び施設を調整し、交流を始めていくところです。



# 誉田地区

## ◆被災地のお年寄りに 温もりを送ります。

千葉県社会福祉協議会誉田地区部会のいきいきサロン『ひまわり』では、東日本大震災で被災した皆様を支援しようとの思いで、「ひざ掛け」・「肩掛け」二百八十六枚をつくりました。

そして、誉田二丁目町内会長（渡辺会長）とサロン代表者（中村さん）とで、千葉市役所本庁舎を訪問し、千葉市副市長さんに手渡しして被災地である宮城県亘理町の佐藤記念体育館で避難生活をされている皆様に送ることができました。

被災されました皆様方には早く元の生活に戻られますようお祈りいたします。

## ～緑区区长から一言～

いきいきサロン『ひまわり』の皆様方のこのような活動に対して、他団体の協力を受けながら、皆様で一編み・一針に気持ちを込めて製作されたと同いました。

区長として、緑区民である皆様の

活動を誇りに思うとともに、今回の支援物資の提供にあたり、ご尽力された関係者の皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。



# 椎名地区

## ◆伝統を次の世代に

### バトンタッチ！

椎名地区では、次世代を担う子どもたちに、今は消えつつある昔遊び

や伝統行事などを、「ふれあい」ながら語り継いでいきます。

十一月の「しいのみ祭」では、

## 【しめ縄作り】



お家に飾ろう！

## 【竹馬遊び】



こわいよ～...♡\_♡

その他、ビー玉遊び・こま回し・竹とんぼ作り・めんこ遊び・ことり笛作り・絵手紙作りなどを楽しんで伝えていきます。

また、十二月には子どもたちが育てたお米を使い、長さ二十メートルの【太巻すし作り】に挑戦しました。



すご～い長いおすし！

# 土気地区

## ◆支えあい街づくり

### 『おおかぶ会』の紹介

本会は、越智はなみずき台団地を中心とした地域住民の参加協力により、地域を活性化し、高齢者・障害者等に対する支援・サービスや交流等の活動を通じて優しい地域社会づくりに寄与することを目的に、

平成二十三年二月一日に設立しました。会員は現在百六十名です。



★活動内容★

- ①病院や買い物などへの送迎
  - ②簡単な電気仕事・大工仕事、草刈りや生垣・樹木の剪定等の家事支援活動
  - ③会員相互及び地域活性化のためのサロン・交流活動
  - ④おおかぶ会会報「おおかぶ便り」の発行
- ★会員・賛助会員★
- 支援を受けた人、協力する人及び参加意識を持っている人はすべて会員。また、本会の活動に賛同する個人、企業、団体は賛助会員。
- ★運営資金★
- 本会は、運営資金（借入金）、運

営協力金（会員が出し合う協力金）、賛助会費、寄付金品等により運営。原則として支援・サービスは無償。

【会長 柚澤 郁夫】

# おゆみ野地区

◆奥地圭子氏講演

「心配しないで不登校」といえるためにに参加して

小中学生の子どもがおりますので、子育ての参考にさせていただこうと思いましたが、

お子さんの不登校という先生ご自身の体験をきっかけに、フリースクールの開設、行政への働きかけ、中学校の開校などの活動を通して不登校児の全面的な支援をされていることから、先生の大変な熱意を感じました。

親や周りの大人はどのように子どもを理解し、かかわっていくのが良いのか指針となるお話でした。

私自身、親としての気持を優先してしまい、子ども自身の気持ちを考えることがなかったと反省しました。

自分の子どもが不登校になっても、このような支援が身近にあれば未来がみえると思えますし、現在、不登校で悩んでいる親御さんや本人たちに広く認知されることを望んでやみません。

## おゆみ野地区行事

- ◆お楽しみ会（音楽を楽しもう！）  
平成24年1月15日（日）
- ◆まちづくりフォーラム2012  
平成24年1月22日（日）
- ◆四季の道駅伝大会  
平成24年2月19日（日）
- ◆ふれあい・子育てサロン  
平成24年1月31日（火）  
平成24年3月1日（木）
- ◆ふれあい・いきいきサロン  
平成24年2月9日（木）  
平成24年3月8日（木） ランチ

### 編集後記

大震災で被害を受けた方々より、皆様から受けた「助け合い」の行動に、復興への勇気も出ましたとの声が届けられました。

日頃より向こう三軒両隣の絆の輪を広げるための広報紙を志します。（H）

## 社協緑区事務所情報コーナー

緑保健福祉センター2階  
TEL:043-292-8185  
FAX:043-293-8284

皆様こんにちは。私ども社会福祉協議会緑区事務所は、この4月より組織及び人員の改編等により生まれ変わりました。

今まではどちらかというと、事務所で皆様からのご相談を待っていたり、皆さんの活動を後方からお手伝いすることが主でした。これからは、皆様の元に出向き、一緒に悩み、考え、課題を

共有し、その課題の解決に向けて、専門機関・団体や地域のネットワークとつなげたり、新たなネットワークを提案したりといった「つなぎ」・「調整」・「企画提案」の役割を果たしていきます。

今後、皆様とは様々な場所でお会いすることも多々あるかと思いますので、どうぞお気軽にご相談ください。

出陣マスコットキャラクター  
つつ・ついに誕生！！



皆さんに幸せを届けます！  
これからどんどん皆さんの地域にもお邪魔しますね！

つーちゃん